

# 歌うたい石

笠間市

昔、笠間の佐白山の南側の谷にたいそう大きなかしの木があったことから、このあたりの谷は「かし沢」と呼ばれていました。

かし沢には、笠間の地へ流罪るざいとなった高柳大納言たかなぎだいなごんという位の高いお公家さまが住んでいました。高柳大納言は、和歌を作るのが上手で、都では名のある歌人とともに和歌を詠むほどの腕前でした。

移り住んで間もないころは、あたりに咲く梅の花をみては「都の天神様の梅はもうおわりだろうか」、お盆には「大文字山のおくり火はさぞかしみごとだったろう」「嵐山のまんどう流しは今年はどうだったろう」と都への想いにふけることもあったといひます。



月日がたち笠間の暮らしにも慣れたある日、高柳大納言が散策していると、佐白山の東にある小さい山が、都に住んでいた頃の屋敷の裏山に似ていることに気がつきました。この山の中腹には高さ3メートルほどの大きな石があり、石の上は平らで座敷のようでした。都の様子を思い出し、その石の上で昔詠んだ和歌を口ずさんでいると、いつのまにか晴れ晴れとした気持ちになりました。

それ以降、高柳大納言がこの石に上がって和歌を詠んでいる姿がたびたび見られるようになったことから、笠間の人々はこの石を「歌読石」と名付けました。そして、いつのころからか「歌読石」から「歌うたい石」へと呼ばれるようになったということです。

約7ヘクタールの公園いっばいに、つつじが咲き誇る笠間に足を運んではいかがでしょうか。春爛漫、赤、白、紫、ピンクと色とりどりの美しさを味わいながらの散策は格別です。

〈出典〉笠間の民話(下) 笠間市教育委員会生涯学習課／編集



「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく

**ISUZU 茨城いすゞ自動車株式会社**

本社 / 〒310-0063 水戸市五軒町1-2-5 ☎029-225-1215(大代) <http://www.ibaraki-isuzu.co.jp>

いきいき茨城ゆめ国体2019 を応援しております。